

# 野田物語

棋士・渡辺東一⑥  
いよいよ八段へ

## 関根名人とも対局

七段戦で塚田正夫七段を破り、優勝した渡辺東一は、土居市太郎、金易二郎をはじめ7人の八段の棋士と、菊池寛の斡旋で段位の格付けをせず特別参加した阪田三吉とともに、「第二期名人戦」に参加します。

これは、第一期名人となった木村義雄への挑戦者を決める対局で、昭和13(1938)年から約2年をかけて、熱戦が繰り広げられました。

中でも渡辺は、自分の師・関根金次郎のライバルでもあった阪田三吉と対局できたこ



上は関根名人(右)と対局する渡辺(写真提供=越智信義氏)／対局の様子を伝える新聞(資料提供=渡辺桂三氏)



とが印象に残ったようで、後に「七段戦で塚田さんに勝つてよかったなと、私は今でも思っているんですが、それは坂田さんと指せたということです」と語っています。

第二期名人戦当時、阪田は69歳でしたが、棋力は衰えず、34歳で指し盛りであった渡辺と互角の戦いをします。

昭和13(1938)年9月7日、渡辺は阪田との初戦を、大阪の箕面公園・喜楽で行い、1勝します。

なお、余談ですが、この時の記録係をしていたのが、後の

に第十五世名人となる大山康晴だったといえます。

2度目の対局は、正式な記録が確認されていないので、対局月日と場所は不明ですが、渡辺は阪田に130手で破れています。

なお、阪田はこの渡辺との対局を最後に、公式戦には登場せず、事実上の引退となりました。残念ながら渡辺は、木村への挑戦者となることはできませんでしたが、強豪の中で、力いっぱい第二期名人戦を戦い抜きました。

そして昭和16(1941)年、いよいよ八段となった渡辺東一は、同年4月11日、師匠である関根金次郎十三世名人と記念対局に臨むこととなります。

一時は、関根からその「弱さ」に愛想をつかされ、見込みが無いからと、郷里の親元へ帰される出来事もあったのが、以降、着実に力をつけて見事八段まで上りつめた姿に、師匠の目には光るものがあつたといえます。※文中敬称略(次号へつづく)

【参考資料】阪田三吉血戦譜 東公平・大泉書店／「名棋士名勝負」天狗太郎、光風社書房

【資料提供】舩松人権歴史館

## 7月の休日当番医

休日当番医での診療時間  
 外科・産婦人科 = 9時～22時(ただし16時～19時は除く)  
 内科 = 9時～16時(19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
2日(日)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	豊泉医院(☎7129-3813)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
9日(日)	門倉病院(☎7124-5311)	石井医院(☎7122-2434)	荒井医院(☎7122-5723)
16日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	鈴木医院(☎7124-5683)	小張総合病院(☎7124-6666)
17日(月)	西村クリニック(☎7123-0050)	花井クリニック(☎7123-3900)	小張総合病院(☎7124-6666)
23日(日)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	たんぼぼこどもクリニック(☎7126-8118)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
30日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	スズキ皮膚科内科クリニック(☎7126-2285)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。


## 急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時～22時(毎日)  
 ▼歯科診療 = 9時～正午(休日)

▼先日、講習会でAEDの使用方法を学びました▼発作で停止した心臓に電気ショックを与える装置ですが、普段家庭で使用している自動血圧計と同じように操作できました▼しかし、人は火事に直面し動揺すると、消火器の操作はおろか119番通報でさえ、うまくできなくなると思います▼いざというときに、慌てずに操作できるように、今後も定期的に講習会に参加しようと思います▼市では、7月5日に、市内12か所の公共施設にAEDを設置するとともに、消防本部でAED操作を含む救命講習会への参加を随時受け付けています。(な)


**編集後記**

市の木




けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり